

播種して踏む！麦作後にできる水稻乾田直播技術

水稻の乾田直播栽培は、移植栽培と比べて苗づくり・代かき・苗箱運搬等がなく省力・軽労化を図れます。二毛作地域である北部九州では、漏水とそれに伴う雑草繁茂が問題となることが多く普及が進んでいませんでしたが、振動ローラの導入により麦作後に速やかで安定的な水稻乾田直播栽培が可能になりました。その概要を紹介します。

☆ 技術の概要

1. 麦収穫後、水稻を播種したのち漏水対策として振動ローラで鎮圧します。(図1)
2. 播種は、麦用の播種機でも行えますが、前起こしをしない一工程播種機を用いると、降雨による作業の遅れを回避しやすくなります。
3. 鎮圧工程により十分な漏水防止効果を得るためには、作業時に土がある程度濡れている必要があります。作業直前に地表際の土壌を握って固まれば、適正水分であると判断できます(図2)。播種との組み作業にすると、適正な水分条件に整いやすくなります。
4. 振動ローラは比較的軽い(川辺農研産業社製 SV2-T を使用)ので、14kW(20馬力)クラスのトラクタに取り付け可能です。
5. 激しい漏水が想定された圃場でも、この作業工程での乾田直播栽培では漏水問題は起こらず、移植栽培と比べて遜色ない収量を得ています。



図1 二毛作地域向けの乾田直播栽培作業工程



図2 鎮圧作業適正水分の確認

*作土の中でも乾きやすい表面5cm程度を握る
 **乾きすぎの時は降雨等、湿りすぎの時は乾燥により、適正水分になってから鎮圧する。出芽後に鎮圧した例もある。

☆ 活用面での留意点

1. 振動ローラによる鎮圧は、畦畔から横への漏水を防止するものではありません。横漏れが激しい水田では畔塗等移植栽培と同様の対策をおこないます。
2. 本技術の詳細については、マニュアルをご参照ください。(http://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/publication/pamphlet/tech-pamph/130102.html)

(農研機構九州沖縄農業研究センター水田作研究領域 中野恵子)